

日経産業新聞

2016年(平成28年) 1月26日 火曜日

NIKKEI BUSINESS DAILY

General Packaging Industry

GPI
ゼネラル・パッケージング・インダストリー

イノベーションで包装を超える。

多摩→米西海岸 技で進出

シリコンバレーとつながる利点は大きいとみる

TAMAブランドで売り込み

- 現地の新興勢力と情報交換・商談
- 共同開発や製品評価、試作に協力

TAMA協会はシリコンバレーの展示会を視察、最先端技術を学んだ

TAMA協会事務所

シリコンバレー

多摩地域

シリコンバレー発の製品が世界で普及
=量産時の受注も

独自の技術・技能を蓄積 (ミズキの工場)

アップル「アップルウォッチ」

米テスラ・モーターズの高級EV「モデルS」

新興国の台頭に大手企業の海外移転……。国内の中小製造業に逆風が吹くなか、東京西部などの「広域・多摩地域」の企業が海外の開拓で奮闘している。電子・計測関連を中心とした独自の技術・技能の厚みには世界も視線を注ぐ。多摩発イノベーションが始まった。(関連記事12面に)

広域多摩発 世界を開く

「スマホ部品は経験がなかったが、こんな縁は二度とない。やるしかない」と腹を決めた。住工混在の市街地の建屋で従業員50人弱が働く。ミズキは一見すると町工場風だが、オリンパスや日本電産グループなどの精密機器で鍛え上げた技術は折り紙つきだ。旋盤を使わずに短時間で1千分の1の精度のネジやシャフトをつくりあげていく。図面通りだけでなく、顧客に提案する試作・設計力も強みだ。

シリコンバレーに売り込み

カメラなどの精密機器に用いる精密ねじやシャフトを製造するミズキ(神奈川県綾瀬市)は昨年夏から秋にかけて、最大月1500万個というスマートフォン(スマホ)向け特殊シャフトの量産に追われていた。搭載されるのは米スマホ大手の新製品。ミズキは部品を開発・試作から受注し、日本の通信機器部品大手を介して納品した。

「取引量も、世界で知名度ゼロのうちになが、水木社長はメールが本物とわかる」との受注につながった。

「新しいスマホに貴社のシャフトを使えないか」。新製品の設計を表現するため、世界で部品を探していることを物語っていた。米スマホ大手の「新しいスマホに貴社のシャフトを使えないか」。新製品の設計を表現するため、世界で部品を探していることを物語っていた。

中堅企業、先端潮流に参画 スマホの次 読む

収穫は大きかった。水木社長は米西海岸を訪れる中で「世界をリードする製品はここから生まれている」と感じた。5年先、10年先の世界の製品の潮流や、必要となる技術が読める。水木社長は精密ロボットや医療の技術を磨くことを視野に入れた。

自動車やスマホなど、精密なネジを製造しているミズキ(神奈川県綾瀬市)

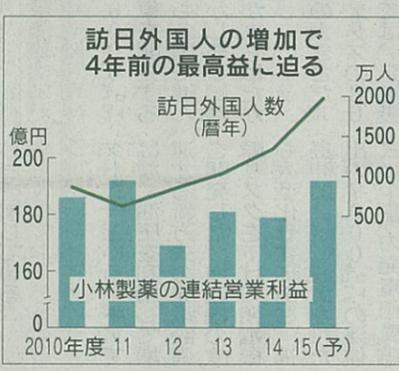


「それおもしろいね。まだ契約には至っていないが、現地の通信大手など10社ほどと折衝中という。日本でも新たに取引先を求めたい」と新川取締役。米国の受注で、日本での販路開拓にも弾みがつくと期待する。

自動車工場を使う工作機械の洗浄水の浄化フィルター装置を製造するindustria(インダストリア)も米ハイテク企業と手を組んで、高周波回路の動作や不具合の解析などに用いるプローブという測定機器。広い周波数帯域の測定に耐えられるのが特徴だ。電気自動車や半導体などの開発時の評価装置としての需要が見込まれる。

展示会では来場者から「計測時間の短縮や用日本の中堅・中小製造業は長年、国内で大手の要求に耐える中で技術・技能を磨いてきた。しかし日本の大手も技術だけで世界の先頭を走ることが難しくなった。トヨタ自動車をはじめ日本の大手がシリコンバレーに拠点を設ける時流にある。「後追いになるな」。多摩企業が日本の中小に呼びかけているようだ。

小林製薬、最高益に迫る



特需後備え「化粧+医薬」

が厚生労働省によって認められたのが医薬品で治療を主眼とする。医薬品は、厚労省が認めた有効成分が一定の濃度で配合されているものを指し、防止・衛生を目的とする。化粧品は利用者の魅力を高めるためのもので、治療・防止・衛生を目的としていない。

スキンケア医薬品とは、症状の治療を目的とした医薬品でありながら、独自の成分とネーミングを武器に成長してきた小林製薬。中長期的な視点で新商品開発に取り組むという同族経営の良さは、爆発的な追い風が吹いても揺るがない。21日の春の新商品発表会で小林社長は「スキンケア医薬品という新市場を創造する」と語った。

小林製薬の4・12月期の連結売上高は前年同期比約8%増の1046億円。増収額約75億円のうち約30億円が訪日外国人の購買増によるものだ。

「化粧+医薬」は、スキンケア医薬品と化粧品を合わせたもので、大勢が来る池は競争が激しい。誰もいない池で大きなチャンスを獲得する。こう考えた小林社長は、スキンケア医薬品という新市場創造を目指した(加藤彰)

協会が商談支援

シリコンバレーという世界の「川上」を押しきたい。水木社長のような経営者が多摩で増えている。製品の共同開発や試作の受注、製品評価のための計測装置の供給を通して、世界最先端の発想を手に入れるのだ。量産時の受注を狙える。

もっとも中小が単独で展開するのは負担も重い。音頭を取るのが、広域多摩の製造業をつくる一般社団法人、首都圏産業活性化協会(TAMA協会、東京都八王子市)だ。2014年に会員企業を対象にシリコンバレーを回る取り組みを始めた。現地の産業展示会を視察・出張したり、現地企業との商談や情報交換を支援したりする。

昨年春には直接、サンフランシスコ近郊に協会のシリコンバレー事務所も設けた。現地に詳しいスタッフが現地企業との

小林製薬が25日に発表した2015年4・12月期の連結決算は、営業利益が前年同期比約12%増の166億円だった。中国から日本を訪れる人たちが「爆買い」の恩恵を受け、16年3月期通期では過去最高に迫る勢いだ。ただ、中国景気減速で特需が長続きする保証はない。小林草浩社長が新たな収益源に育てようとしているのが「スキンケア医薬品」だ。

「神薬」と呼ばれるリトマス試験紙の増産で、増収額約75億円のうちの約8%増の1046億円。増収額約75億円のうちの約8%増の1046億円。増収額約75億円のうちの約8%増の1046億円。

日経電子版から

湖出身地、地熱に熱視線

元横綱・北郷ある北海道静かな注視。町が資材を産出している段階から様々な地熱発見した秋波を

ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)の資金を得て地熱資源の調査事業をしている。昨年は町内の42カ所で地表から地下の状態を調査、15年度はその結果を踏まえて、試掘を始めている。作業が始まるかどうかのタイミングで、町役場に意外な企業から電話が入った。九州電力だった。(11面に続く)

SANKEN ENVIRONMENTAL ENGINEERING

人と空気と水の環境創造。

http://skk.jp

日経電子版 <http://www.nikkei.com/>
お問い合わせ(7:00~21:00) ☎ 0120-24-2146

日経産業新聞online <http://www.nikkei.com/tech/ssbiz/>
購読のお申し込み ☎ 0120-21-4946